

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
コミュニケーション論 Communication Competence		2年	前期	月曜・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (授業中に指示します)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
授業中に指示します				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
授業中に指示します				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
長江 庸泰	本館2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
本授業は、コミュニケーションに関し、①科学的アプローチ、②コミュニケーション・モデル、③言語、④非言語、⑤認識プロセス、⑥コミュニケーション・コンピテンス、⑦対人、⑧小集団、⑨組織内、⑩異文化の計10のポイントから学習を進め、コミュニケーションを多面的に学習しながら、組織体の社会的責任や顧客満足を重要視する『統合マーケティングコミュニケーション』へと結実させる。				
授業の到達目標				
①コミュニケーションにおける「科学的アプローチ、コミュニケーション・モデル」を理解出来るようにする。 ②コミュニケーションにおける「言語、非言語」を理解出来るようにする。 ③コミュニケーションにおける「認識プロセス、コミュニケーション・コンピテンス」を理解出来るようにする。 ④コミュニケーションにおける「対人、小集団」を理解出来るようにする。 ⑤コミュニケーションにおける「組織内、異文化」を理解出来るようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、コミュニケーションに精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果				
①コミュニケーションにおける「科学的アプローチ、コミュニケーション・モデル」を理解し、第三者に説明できる。 ②コミュニケーションにおける「言語、非言語」を理解し、第三者に説明できる。 ③コミュニケーションにおける「認識プロセス、コミュニケーション・コンピテンス」を理解し、第三者に説明できる。 ④コミュニケーションにおける「対人、小集団」を理解し、第三者に説明できる。 ⑤コミュニケーションにおける「組織内、異文化」を理解し、第三者に説明できる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法が身につくようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)			
第2回目	コミュニケーションとは何か①			
第3回目	コミュニケーションとは何か②			
第4回目	ノンヴァーバル・コミュニケーション			
第5回目	デイスコミュニケーション			
第6回目	マス・メディアの影響①			

第7回目	マス・メディアの影響②		
第8回目	コミュニケーション:受け手の能動性		
第9回目	メディア論とマス・メディアの複合影響説		
第10回目	情報操作とメディア・リテラシー		
第11回目	ネットワーク・コミュニケーション:インターネット		
第12回目	インターネットと市民性		
第13回目	マスコミとジャーナリズム		
第14回目	統合マーケティングコミュニケーション (IMC: Integrated Marketing Communication)		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の3点から評価する:①ノートを取り、創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
レポート		30%	以下の3点から評価する:①創意工夫してまとめ上げられている、②自分の意見を論理的に述べている、③課題の本質を理解し、まとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		40%	グループワークによるプレゼンテーション力を試験し、以下の3点から評価する:①内容が創意工夫されてまとめ上げられている、②グループの意見が論理的に述べられている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
発表内容 (態度含む)		20%	レポート発表は、以下の3点から評価する:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他			上記評価基準に基づき成績評価: S (傑出した内容)=90-100、A (平均を上回る内容)=80-89、B (平均的内容)=70-79、C (平均を下回る内容)=60-69、D (左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書			
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[コミュニケーション論 2013年度版]”を活用する。			
履修上の心得・ルール			
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。			